

## 2023年度 龍谷大学 大学認証評価 改善課題に係る改善状況及び今後の方向性

2023年6月

No.	基準	「改善課題」の内容	改善の状況と今後の方向性
1	基準4 教育課程・ 学習成果	経済学研究科博士課程、経営学研究科博士課程では、教育課程の編成・実施方針に教育課程の編成に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。	経済学研究科は、2023年度から「教育課程の編成に関する基本的な考え方」をはじめ教育課程編成・実施の方針を改訂し公表している。 経営学研究科は、教育課程の編成に関する基本的な考え方を示すべく、2022年度から教育課程編成・実施の方針を改訂し公表している。
2		先端理工学部では、教育課程の編成・実施方針を学位ごとに設定していないため、これを定め公表するよう改善が求められる。	先端理工学部は、2022年度から教育課程・実施の方針を学位ごとに定め公表している。
3		研究科において学位授与方針に定めた学習成果の把握は、博士論文又は修士論文の提出と審査への合格をもって行うにとどまっており、学位授与方針に定めた学習成果を多角的かつ適切に把握・評価しているとはいえないため、改善が求められる。	2023年3月、大学院研究科修士を対象に学習成果の測定を目的とした『大学院生に保証する基本的な資質』に関する意識調査を実施した。
4	基準5 学生の 受け入れ	各学部における編入学者数は、文学部、理工学部、農学部で特に定員を大きく下回っており、大学全体としても定員を下回る状態が常態化していることから、改善が求められる。	学長、副学長、各学部長等を構成員とする「入学試験委員会」において、編入学試験の入学者数等に係る状況を共有し、改善に取り組んでいる。各学部の主な取り組みは以下のとおり。 ・文学部は、2022年度から編入学定員数を変更し、また指定校編入推薦枠数を増加させた。 ・先端理工学部は、高等専門学校や短大等への編入学制度の紹介（カリキュラムの特色を含めた入試広報）を継続して実施する。また、2022年度の教授会において、課程ごとの指定校編入推薦枠を決定した。 ・農学部は、2023年度から食品栄養学科に編入学定員を設け、各学科の編入学定員数を変更した。また2023年度から指定校編入学試験を新設した。さらに2024年度からは、2年次転入学入試を新設することとした。
5		収容定員に対する在籍学生数比率について、法学研究科修士課程で0.38、経済学研究科修士課程で0.08、経営学研究科修士課程で0.17、同博士後期課程0.11、社会学研究科修士課程で0.40、理工学研究科博士後期課程で0.19、農学研究科修士課程で0.45、実践真宗学研究科修士課程で0.36と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。	学長、副学長、各学部長等を構成員とする「全学教学政策会議」の下に「大学院充実策検討委員会」を設置し検討を重ねた。今後は、大学院充実にかかる政策を遂行していく予定である。
6	基準6 教員・ 教員組織	「龍谷大学におけるFDの定義」では教育改善に関する活動をFDと定義しており、実態としては「科学研究費サポート制度」等の取組みは見られるものの、政策学部及び理工学研究科を除き、FD活動として研究活動の活性化や社会貢献等の諸活動の推進を図ることを目的とした取組みは行われていないため、改善が求められる。	教育改善のみならず、研究活動の活性化や社会貢献等の諸活動の推進を図ることをも目的とした「龍谷大学におけるFD活動の実施方針」を制定し、あわせて教育に関するFDの定義に加え、「研究に関するFDの定義」「社会連携・社会貢献に関するFDの定義」を設定し本学ウェブサイトで公表した。
7		文学研究科、経済学研究科、農学研究科では、教育改善に関する大学院固有のファカルティ・ディベロップメントが十分に行われていないため、修士課程・博士課程全体又は各研究科として、適切にこれを実施するよう、改善が求められる。	大学院全研究科において、研究科固有のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を実施する。
8	基準8 教育研究等 環境	全ての教員に研究倫理教育プログラムの受講・修了を求めているものの、修了していない教員がいることから、改善が求められる。	研究倫理教育プログラムは、全教員の受講を義務づけている。新任教員には、着任時に研究倫理教育プログラムを説明し受講を促している。未受講の教員数名に対しては、コンプライアンス推進責任者（学部長）とも状況を共有した上で、個別に督促を継続している。引き続き速やかな受講を呼び掛ける。その他、競争的資金に関する説明会において研究不正防止に関する説明を行うなど、研究倫理に関する啓蒙活動を実施している。